

公表

## 事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	みゆーくる		
○保護者評価実施期間	2025年 7月 1日		2025年 7月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2025年 7月 1日		2025年 7月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 7月 31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ピアノやドラムなど様々な楽器に触れながら、生演奏による音楽活動やリズム遊びを取り入れ、子どもが楽しみながら参加できる療育を行っている。 音楽を通して集中力や自己表現、コミュニケーションの広がりにつながるよう工夫している。	活動の中で子どもが主体的に参加できるよう、視覚的な手がかりや分かりやすい進行を取り入れるなど、発達特性に配慮した活動設定を行っている。	子どもの発達段階や興味関心を踏まえながら活動内容を見直し、楽しさと学びの両面を大切にした療育プログラムの充実を図っていく。
2	保護者との信頼関係を大切に、日々の様子や子どもの成長について丁寧に共有しながら家庭と連携した支援を行っている。	送迎時のお話や、連絡ツール、面談などを通して、子どもの様子や活動の意図を伝えるとともに、保護者からの情報や相談内容を支援に反映できるよう意識している。	保護者との情報共有を継続しながら、家庭での様子も踏まえた支援の検討を行い、家庭と事業所が連携した支援体制の充実を図っていく。
3	職員間での情報共有を大切に、チームとして子どもの成長を支える支援体制を整えている。	日々の支援の中で得られた気づきや子どもの変化を職員間で共有し、支援方法の統一や調整を行うよう努めている。	職員の専門性向上のための学びや振り返りの機会を設け、チームとしての支援力の向上と療育の質の充実を図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	音楽療育を特色として実施しているが、その支援効果や子どもの成長の変化について、より分かりやすく整理し発信していく余地がある。	音楽活動は子どもが楽しみながら参加できる反面、療育としてのねらいや発達面での効果が十分に伝わりにくい場合があるため。	音楽活動を通して見られた子どもの変化や成長について記録や共有を行い、支援の意図や成果を保護者へ分かりやすく伝えていく。
2	未就学児から高校生まで幅広い年齢層や特性の子どもが利用しているため、それぞれの発達段階に応じた支援の工夫を継続して行う必要がある。	発達段階や課題が多様であり、個別支援と集団活動のバランスを取りながら支援を行う必要があるため。	個別支援計画に基づいた支援を大切にしながら、年齢や発達段階に応じた活動内容の工夫やグループ分けを行い、より適切な支援につなげていく。
3	地域における発達支援事業所としての役割や取り組みについて、より広く発信していく余地がある。	日々の支援業務を優先する中で、事業所の取り組みや特色を地域へ発信する機会が限られているため。	事業所の活動内容や支援の特色について情報発信を行い、地域の関係機関や保護者にとって相談しやすい事業所となるよう取り組んでいく。